



MUSASHINO *for* TOMORROW

Vol.141
Oct 2022



特別対談

夢心運—— 宿命と運命に彩られた相撲人生 (前編)

宮城野親方 | 元横綱白鵬
福井 直昭 | 武蔵野音楽大学学長

卒業生インタビュー

『武蔵野』に押されて邁進する作曲の道

小田実結子 | 作・編曲家



特別
対談

前編

夢心運——宿命と運命に彩られた相撲人生

第69代横綱 宮城野親方(元横綱白鵬) × 福井直昭(本学学長)

特別ゲスト：富山英明(日本レスリング協会会長・1984年ロサンゼルス五輪金メダリスト)

昨年9月、幕内優勝45回・通算1137勝など5つのギネス認定をはじめとする数々の前人未到の記録を残し引退した元横綱白鵬関。本年7月には年寄「宮城野」を襲名し、後進の指導に当たっています。本号から2回にわたる福井直昭学長との対談は、昨年10月に日本レスリング協会会長に就任した本学園評議員 富山英明氏(1984年ロサンゼルス五輪金メダリスト)をゲストに迎えるという豪華なものとなりました。ここ数年でそれぞれ新たなステージに立った御三方による充実のスペシャルトークをお楽しみください。

特別な二番を観戦

福井 親方、今日は御来学いただき、誠にありがとうございます。共通の知人である富山先生にもお越しいただきましたので、鼎談という形でお話をしようと思います。

宮城野 富山先生は、行司ですね(笑)。

福井 「行司差違え」のないよう、お願いいたします(笑)。さて、親方とは子供同士が小学校時代の同級生という関係ではある

宮城野 翔 Sho Miyagino

第69代横綱。本名・白鵬翔(帰化前はムンフバト・ダヴァジャルガル)。1985年3月11日モンゴル・ウランバートル市生まれ。父はモンゴル相撲の横綱で国民的英雄。15歳の時に来日し宮城野部屋に入門、2001年3月場所初土俵を踏む。新大関の2006年5月場所、幕内初優勝。2007年5月場所後に横綱に昇進、以後土俵の内外で相撲界を牽引。幕内優勝回数45回などの5つのギネス認定記録を含む数々の大記録を残し、2021年9月に引退。年寄「間垣」を経て、2022年7月年寄「宮城野」を襲名。生涯戦歴：1187勝247敗253休。

ものの、今日が初対面なんですけど、実は過去に接点があったという映像を、まずは見ていただきたいと思います。

※福井学長がタブレットを取り出して、2つの取り組みの映像をお見せする。ひとつは、平成18年5月場所、白鵬が優勝決定戦で雅山を破って幕内初優勝した際のもの。画面中央の砂かぶり席に、ポロシャツ姿の福井学長が見える。ふたつめは、平成27年初場所の13日目、白鵬が取り直して稀勢の里を破り歴代最多33回目の優勝を決めた際のもの。土俵から下り、花道から支度部屋に戻る白鵬の肩をポンポンと叩いて祝福する福井学長の姿が大きくはっきり映っている。

福井 初優勝と33回目の優勝は、親方にとって特別なものの



本文中の二番をタブレットで見る御三方

はずですが、まずは初優勝が決まった一番、この砂かぶり席でボーダーのシャツを着ているのが私です。

宮城野 おーっ、若い！ おいくつの時ですか？

福井 35ですね。横綱が勝った時、大喜びしています。

宮城野 へえー。でも、この席は本来手を叩いてはいけないうですよ。

福井 そうなんです（苦笑）。でも、これで私が白鵬ファンだったということが、まずは証明できました。

宮城野・富山 （爆笑）

福井 私、この席に座るのはこの日が初めてだったので、我ながら持っているなど（笑）。そして、とっておきの次の映像は、それまでの大鵬関の記録を破る歴代最多33回目の優勝がかかった一番です。取り直しの末に完勝したこの瞬間には、私はまだ画面に映っていません。この日は花道のすぐ脇に座っていたんですが、この後、図々しいことをしてしまうんです。（ニュース速報テロップが流れる中、白鵬関の肩を叩く学長がアップで映る）これ、私！

宮城野 おーっ！

富山 わははは（爆笑）。笑っちゃうね。

宮城野 隣の人は奥様ですか？

福井 この人は全然知らない方で、多分後ろのマスの中…

富山 隣は内緒です（笑）。

宮城野 だいぶ年上だったよ（笑）。

富山 年上好みだからね（笑）。

福井 勝手に話を進めないでください（笑）。つまりご覧いただいたように、史上最多優勝を世界で一番最初に祝福したのは、何を隠そうこの私だったと（笑）。ところが、この後すぐ



歴代最多33回目の優勝を決め花道を引き揚げる白鵬関を祝福する福井学長（2015年1月23日両国国技館）

に友人たちからすごい量のLINEが来たんです。「テレビで見たよ！」と、まるで私が優勝したみたいに（笑）。誰にも観戦の話はしてないですよ。平日だったので、できたら隠れたいくらいじゃないですか。自分から肩を叩いておいて何言ってるんだ、という話ですが（笑）。とにかく、これははしゃぎ過ぎたと反省し、一緒に観戦していた妻から、親方の奥様（紗代子夫人）へ「いま福井が映り過ぎてしまったようでスマミセン」とメールさせて頂いたんです。すると、すぐに奥様から返事が来て、「いま、私もテレビで（福井さんの）ご主人を拝見しました」と。奥様は私の顔は知らなかったのに（笑）。

宮城野・富山 （爆笑）

福井 さらに後日談があるんですけど、親方が国技館からご帰宅され、ニュースか録画でこのシーンを観た時、あまりに私が馴れ馴れしいからか、「これ、俺の知っている人？」と奥様に尋ねられたと（笑）。そんなことを10何年か前にお聞きしました。

宮城野 へえー。

福井 その時、奥様が何とおっしゃったかは分かりませんが、おそらく「直接面識はないけど…」

富山 子供同士は、繋がってはいると（笑）。

福井 私もたまにテレビに出ることがあるんですが、先日、十何年ぶりに話した友達に「以前、テレビで見たよ」と言われて、何の番組か聞いたら、「白鵬の33回目の優勝」だと（笑）。

宮城野・富山 へえ。

福井 そういう度に、先の一連の話をするんですけど、でも、この話はずうっと横綱ご本人にお話ししたかったので、その夢が、たった今叶いました（笑）。

富山 わはは。でも、不思議だね。たまたま、そういうことがね。

宮城野 しかも、よりによって特別な二番だね。でもね、前から私は、「人は多くの縁で繋がっていて、その不思議な縁



歴代最多33回目の優勝を果たし、北の湖理事長から賜杯を受け取る白鵬関（2015年1月25日両国国技館）



が歩むべき道に導いてくれる」という考えを持っているんですよ。

福井 親方は、宿命と運命が絡み合った実に劇的な人生を歩まれてきたと思います。本日は、そのあたりに焦点を当てて、お話を伺えればと存じます。

父と家系に対する絶対的な尊敬

福井 お父上は、モンゴル相撲の大横綱であり、レスリング選手としてもオリンピックに5大会連続で出場。1968年のメキシコ五輪では銀メダルを獲得し、モンゴル初のメダリストとなるなど、国民的英雄でした。

宮城野 日本に来て父への尊敬の念を口にすると、なぜか不思議そうな顔をされましたが、私にとっては、ごくごく自然なことでした。私が6歳の1991年、当時協会理事長を辞められ相撲博物館の館長をなさっていた初代若乃花さんが、NHKの世界の相撲のルーツを辿る番組でモンゴルを訪れ、父と対談したんです。その時私は、若乃花さんからお菓子をいただきました。

福井 うまい棒！

宮城野 そうです！ 当時、モンゴルが社会主義を破棄し民主化したため、国内に多くの日本文化が流れてきて、日本に興味を持ちました。衛星放送で相撲を観たり、母に『おしん』を半分無理やり観させられたりしました(笑)。あと観たのは『ラブジェネレーション』。知っています？ キムタクさんと松たか子さんの。

福井 もちろん。『ラブジェネ』、月9ドラマですね！

富山 知らないなあ。

福井 富山先生は年代的に、仕方ないです(笑)。でも、もし社会主義のままだったらと考えると、そこは先ほどの話じゃないですけど、もう運命というか。

宮城野 そうなんです。そうした流れの中、旭鷲山関ら6人の力士が1992年来日して、大島部屋に入門します。しかし、旭天山関を除く5人が、夜中に部屋から脱走し、モンゴルに帰国するという出来事がありました。もう稽古に耐えられな

いって。

福井 大騒動になりました。

宮城野 モンゴルでもニュースになり、彼らを応援していた国民を失望させました。我慢強いはずのモンゴルの子ども達が耐えられなかったと。結局その時は、モンゴルまで来た大島親方に説得されて、全員再び部屋に戻ったんですがね。当時、私は7歳か

8歳でした。

福井 しかし後にこの事件が、入門当初の白鵬関がどんなに稽古が辛くても部屋を逃げ出さなかった理由につながるんですよ。

宮城野 「モンゴルの大横綱の息子まで、辛さに耐えられず帰ってきた」と言われたら、父の顔に泥を塗ることになりますからね。帰りたいという気持ちはあったけれど、帰ってはならないと。

福井 辛かった稽古のお話は、また後程伺います。

「運と縁と恩」で決まった角界入り

福井 日本人の多くは、白鵬関が大いに期待されて角界入りしたと誤解しています。

宮城野 2000年10月、15歳の私は飛行機から生まれて初めて海を見て、来日しました。大阪で日本のアマチュア相撲の人たちと稽古をして、日本を視察するという2ヵ月のツアーでした。

福井 外科医であるお母様が、日本行きのお話を聞いたのは、出発前日だったらいいですね。

宮城野 大反対すると考えた父が、直前まで秘密にしていたんです。案の定、母の反対は猛烈なものだったらしいですが、私を直接責めることはしませんでした。そのかわり私に「人



モンゴルを愛する宮城野親方は、母国の音楽にも詳しい。本学楽器ミュージアムで、モンゴルの楽器群に興味津々

間の右肩には父、左肩には母、額には師匠の魂が宿る、これを心に刻みなさい」と言いました。私は、来日するまで、外泊すら許されなかったんですよ。それどころか、父と母に挟まれて、川の字になって寝ていたんです(笑)。

福井 相当な「箱入り」ぶりですね(笑)。でも、当時のお母様の気持ちは、いかばかりかと。

宮城野 アマチュアといえども稽古は本格的なもので、私たちを見に、いろいろな部屋の親方が来ました。当時、既にモンゴル出身の力士たちが活躍していましたし、2年前に角界入りした朝青龍関も注目されていたからです。稽古が終わると、体の大きい子には続々と声がかかり、入門が決まって上京してきました。しかし、私には一向に…。このままモンゴルに帰れば、「あの偉大な横綱の息子が、力士になれなかった」と言われ、父の名前を汚してしまいます。日本語が話せなかった私は「I don't want to come back.」と言って泣きましたが、何もできないまま帰国の日が近づいてきました。飛行機のチケットをもらい、両親にお土産を買って、「帰ります」と電話を入れました。

福井 それが、帰国前夜、思わぬ展開に…。

宮城野 そうです。4歳の時モンゴルの大草原で初めて会った旭鷲山関が、彼の師匠の大島親方にかけあってくれ、さらに大島親方が、仲の良かった当時の宮城野親方に「こういう子がいる」と話してくれたんです。宮城野親方が出した条件はただ一つ。部屋のモンゴル人力士の龍皇より歳が若ければいいと。声がかからなかった4人は、龍皇と同じ歳なんですよ。唯一、私だけが年下で。

福井 まあ言葉は悪いけれど、宮城野親方(当時)に拾ってもらったということですね。

宮城野 ちなみに龍皇は、今日大学まで車を運転してくれてくれた彼です。入門当初から頼りになる先輩で、彼がいなければ現在の私はいないと思います。

福井 素晴らしいご関係ですね。

宮城野 現在、外国人は一部屋1人ですが、当時は2人まで許されたので、1人が強ければ1人は弱くてもいいと。それと、宮城野親方は、小兵ながら努力で関取まで昇りつめた方です。だから寛大な気持ちで入門を許可してくれたのだと思います。でも、親方は私の体を見ていないんですよ。大阪にいる部屋のOBに、私を見にいかせました。親方に時間があって大阪まで来ていたら、私のことは選ばなかったんじゃないかな。

富山 これもまた面白い話だな。

福井 当時の白鵬少年の体は、175センチ、62キロ。ぴったり今の私なんですよ。

富山 へえ、そうなの。

宮城野 当時の62キロの写真を、もっと世の中に出して知っ

てもらいたいです。そうすれば、日本の子供たちも「僕でも頑張れば横綱になれるかも」と勇気を持てる。

福井 そのことから言うと、私でも横綱になれるってなりませんね(笑)。

宮城野 ちょっと遅すぎますけどね(笑)。62キロしかなかったけれど、新弟子検査の規定では75キロなければいけない。師匠から2つの生活指導を受けました。一つは「食べたら寝る」、もう一つは「痩せちゃうから、稽古はするな」。富山さん、お酒飲みすぎて吐いたことありますか？

富山 そりゃ、ありますよ。

宮城野 でも、食べ過ぎて吐くというのは、なかなか大変ですよ。

富山 それはないな(笑)。

宮城野 横になると気持ち悪くなるから、壁に手を当てたまま寝ろと。「お前吐いたろ」と先輩にはバレて、「もう1回食え」って。まさに食べる稽古ですよ。

富山 減量も辛いけど、それもまた辛いなあ。

宮城野 少し稽古しただけで、「上にあがっていいよ。フィニッシュ」みたいな。もっと稽古したいじゃないですか。嫌われているんじゃないかと思いましたよ。

福井 引退会見の時に、同席されたご師匠が「30年間で、こんなに基礎の稽古をした弟子はいない」とおっしゃったのが印象深いです。それほど稽古熱心な白鵬関が、はやる気持ちを抑えて、食べ続けるのは辛かったでしょうね。

宮城野 部屋に来たのが12月23日です。で、入門が2月の中旬ですから、ほぼ1ヵ月半。この間に身長が5センチ伸び、体重が18キロ増えて。

福井 昔、『1・2の三四郎』というプロレス漫画で、主人公たちがガッと大きくなるシーンを読んで「そんなの現実には…」と思っていましたが、この話を聞くとあり得るんだなと(笑)。

宮城野 寝ることに関しては、全く問題ありませんでした。最高は、1日18時間。

福井 18時間！ 私もいつでもどこでも寝られるけど、さすが





に18時間は…。寝るのって、才能ですよ。前回の対談が、将棋の元名人 佐藤天彦九段とだったんですが、私に「福井先生、寝る才能があるから将棋向きですよ」と(笑)。将棋は長いと1局で丸2日とか頭使いますからね、パッと寝られないと。

宮城野 先輩たちは昼も夜もちょっと出掛けるんですが、その間ずうっと私は寝ている。私は、あまり寝返りをしないみたいなんです。先輩たちが帰ってきて、同じ姿勢で寝息も立てず寝ているから、「おい、白鵬死んでるんじゃないか」と。

福井 ははは。「赤ちゃんは寝るのが仕事」って言うけれど、まさに「食っちゃ寝」が仕事だったんですね。一方、幼少の頃、その後相撲界で生きていくうえでも貴重な「腹が減る」という体験を得たというお話にも、感銘を受けました。

宮城野 家は大都會のウランバートルにあって、冷蔵庫を開ければすぐに何でも食べられる環境だったんですけど、父の兄と妹が遊牧民だったので、夏休みの1ヵ月間大草原に行かされました。そこでは、肉を入れたご飯が1日1回だけ。朝、昼はヨーグルトを飲んだりチーズをかじって誤魔化す感じで、1日中働くんですよ。雨の日だろうが陽が出ていようが関係なく、ずっと放牧している羊を見ていないといけない。狼が来ちゃうし、他の家の羊と混ざっちゃうと分けるのが大変なんです。遠くに行って水を汲んできたり、木のない草原で燃料にするための牛と馬の乾いた糞を集めたり。毎日その繰り返しでした。モンゴル相撲の偉大な横綱の息子であっても、その民族のルールがあるから、それに従う。「人間が食べていくためには果たさなければならない義務と責任があるのだ」ということを、自然と学びました。

福井 モンゴル大草原での「腹が減った」体験と、真逆の入門時の「食べ続けるキツさ」の両方を味わっていらっしやる。

宮城野 キツかったけど大自然の中で我慢を覚え、精神的、肉体的に鍛えられました。そこには、私という人間を培ってくれた原風景が広がっています。

負け越しから始まった相撲人生

福井 そして、デビューの場所を迎えるわけですが、序の口で

最初に3勝4敗で負け越し。歴代横綱で、序の口で負け越した人はいないんですよ？

宮城野 それ、他に2人もいたんですよ！

福井 あれ？ 以前の会見で、最初だと。相撲ファンから苦情が来たんですか？

宮城野 いや、その後、自分でちょっと調べたんですよ。そうしたら、冒頭でお話した初代若乃花さん、私の師匠の師匠である横綱吉葉山、そして私と3人もいたことが判明(苦笑)。横綱昇進時の会見で「自分が最初」って話しちゃって…恥ずかしくて、唯一消したい過去なんです。

福井・富山 (大爆笑)

宮城野 でも、その16歳のデビュー場所と、17歳の三段目で負け越しただけで、そこから負け越したことがないんです。

福井 凄い！ でも、最初の頃は1日3回泣いていたよ。

宮城野 稽古場で2回泣くんですよ。一番キツイ「ぶつかり稽古」を、毎日30本やっていたから。苦しくて泣いて、終わった時先輩に「お前のためだからな」とポーンと肩を叩かれ慰められ、そこでまた泣く。そして夜は布団の中で、明日またあの稽古が始まるんだと思って泣いちゃう。で、音楽聴いて、心を落ち着かせたんです。先輩に、日本語を勉強しろと言われてCDをもらったんですが、それが、夏川りみさんの『涙そうそう』。付属の歌詞カードを全部丸暗記したんです。分からない漢字は、歌を聴いて、ああこういうふうを読むんだと。親元から離れて歌を聴くことは、明日も頑張ろうという原動力になりました。やっぱり音楽というのは素晴らしいなと、余計感じましたね。

福井 それ、音楽の力ですね。

宮城野 そして、本当にいい師匠につき、いい部屋に入ったなど。最後の最後まで声がかからなかったけど、「残り物には福がある」というのは、こういうことなんだろうと。

福井 きっと師匠の方こそ、そう思われてますよね。まさか、この子が45回も優勝するようになるとは、と。

宮城野 ある先輩関取が、私が入門した時、師匠に「この子、お相撲さんは無理じゃないか。床山さん(力士の鬘まげを結い上げる人)にしたほうがいいんじゃないか」って言ったんです。その1年半後、同じ先輩が「親方、この子、最悪でも役力士まで行くんじゃないか」と。そのうち「いや、横綱まで行きますよ」。やっぱり肌を合わせているから、日に日に強くなっているのが分かるんでしょうね。体重が増えていき、日本語も上手くなっていくと、勝っていくんですよ。

福井 ちょっと私、聞きたい話があるんです。奥様と出会って、ラクーアに初デートに行かれたと。普通は初デートでラクーアには行かないですよ(笑)。富山先生、ラクーアって、東京ドームシティにあるスパなんですけど…。



進退を賭けた場所で塩撒きをする白鵬関。全勝による奇跡の復活で45回目の優勝を決め、現役最後の場所を飾った(2021年7月14日ドルフィンズアリーナ)

富山 ああ、行ったことがありますよ！

宮城野 行ったのは、スパじゃなくて遊園地ね。

福井 ああ、遊園地の方！本が間違っているんだ(笑)。それは、目立ったでしょうね。

宮城野 帽子をかぶって…。

富山 帽子をかぶっても分かるでしょう。

宮城野 その時は、まだ十両に上がった頃で、体重も130キロしかなかったから。

富山 それでも目立つと思うけどな(笑)。

福井 130キロだと、乗り物の体重制限にひっかからなかったですか？

宮城野 確か145キロだったと思います。だからギリギリでした。初デートだし、手を握りたいでしょ。だから、お化け屋敷に行ったわけ。

富山 怖くて飛びついてくるからね(笑)。

宮城野 そうそう、まさにそれを狙って(笑)。女性と付き合いなかったし、相撲なんて男社会じゃないですか。同期の力士が、「これを見て勉強しろ」と言ったのが、『冬のソナタ』で。今から考えると、とても恥ずかしい台詞を真似ていました(笑)。

横綱の栄光と苦悩——朝青龍からの電話

宮城野 関脇までは本当に相撲が楽しくて。毎場所、早く来いと思っていました。でも、大関、横綱になってからは、マスコミの前で「楽しい」という言葉を使うのを止めたんです。楽しいこと、ひとつもない。

富山 勝って当たり前だからね。「楽しむ」という心境ではないよね。

福井 横綱は、大関には落ちないですからね。負けたら引退しかない。

宮城野 昇進した時に、故大鵬親方(元横綱大鵬)に「横綱に

なったら、常に引退のこと考えなさい」と言われ、聞かない方が良かったと思ったくらい、衝撃を受けました。

福井 怪我をされてからは、色々批判を浴びました。「ただ勝てばいいんじゃない、横綱としての品格を持て」と。でも、品格＝勝ち方だとしたら、道徳と戦術という本来相容れない要素を、土俵上で両立させなければいけない。それが横綱という地位の困難さですよ。ね。「勝つだけではいけない」という制約の中、勝ち続けなきゃいけない。

宮城野 いま大関だったら横綱は狙わないですね(笑)。

福井 長らく親方と2人で相撲界を牽引した朝青龍関が辞められた時、親方が記者会見で「信じたくない」と感極まり終始涙声だったのを拝見し、とても感動しました。

宮城野 あまりに突然でしたからね。朝青龍関は、乗り越えなければいけない壁、最大のライバルでした。私が横綱になってからは、ほとんど直接言葉は交わしてないんだけど、横綱としての重圧と責任を分かち合える存在がいなくなったというか。たとえば言葉を交わさなくても、いてくれるだけで、大きな存在でした。

福井 栄光と苦悩を共感し合える存在ですね。

宮城野 逆に、去年私が引退した時、朝青龍関から電話がかかってきて、4時間ですよ、4時間も話しました。

福井 連絡があったという話は読みましたが、そんなに長く！それは感動です。

宮城野 電話自体、初めてです。

富山 やっぱりモンゴル語で話すんですしょ？

宮城野 日本語も挟んでね。

福井 頂点に立ったものだけが知る、光と影。私は朝青龍関も大好きなんです。親方同様、相撲内容の魅力だけでなく、発言やサービス精神からくるそれに惹かれました。さて、次回後編でも引き続き「宿命と運命」をテーマに、相撲の奥深さ・魅力、教育論など盛りだくさんの内容のお話を伺います。





© 山岸 伸

『武蔵野』に押されて 邁進する作曲の道

小田実結子 | 作・編曲家

小田実結子 Miyuko Oda

東京都出身。武蔵野音楽大学附属多摩音楽教室修了。武蔵野音楽大学作曲学科卒業。同大学院修士課程修了。作曲を野崎勇喜夫、佐藤誠一の各氏に、ピアノを長堀好美、高坂朋聖、岡珠世の各氏に師事。奏楽堂日本歌曲コンクール第24回作曲部門第2位・中田喜直賞・畑中良輔賞受賞。同コンクール第25回第2位、第27回入選。ミッドウエスト・クリニック主催第1回バーバラ・ビュールマン作曲コンクール中学校バンド向け作品部門第1位。東京交響楽団 & サントリーホール主催「こども定期演奏会」20周年記念企画「新曲チャレンジ・プロジェクト」にてオーケストラ作品採用。2021年12月東京交響楽団により世界初演。(指揮：原田慶太楼)

7月19日、東京オペラシティ コンサートホールで本学ウィンドアンサンブルの演奏会が行われました。その際に演奏された「夜明け《Dawn》」という曲を作ったのが、武蔵野の大学および大学院で作曲を学んだ小田実結子さん。母校の定期演奏会で自身の作品を取り上げてもらうことは、在学中からの密かな夢だったそうです。さらなるステップアップを目指して活動の幅を広げている中、いつも「武蔵野」に後押しされているように感じていると話してくれました。(2022年7月インタビュー)

音楽教室時代に芽生えた作曲への想い

—— この度、武蔵野のウィンドアンサンブル演奏会で、小田さんの作品が取り上げられました。作品のこと、演奏会までの経緯をお聞かせください。

小田 《Dawn》は、2020年にミッドウエスト・クリニックが新設した、女性作曲家バーバラ・ビュールマンの名を冠した作曲コンクールに応募した作品です。募集要項内の「女性やマイノリティの参加を奨励する」という一文に背中を押され、挑戦しました。結果、中学校バンド向け作品部門で第1位をいただき、2021年12月、シカゴで行われた第75回ミッドウエスト・クリニックで初演されました。現地では武蔵野の客員指揮者であるクレーマー先生、オースティン先生、ランブレクト先生をはじめ、多くの方が歓迎してくださいました。

この時は、まだどこかで演奏されれば良いかなぐらいに思っていたのですが、大学から「作品を取り上げることが決まりました」とご連絡をいただき驚きました。現地の先生方との思い出の写真と共に初演を報告したことが印象的だったのかもしれない。

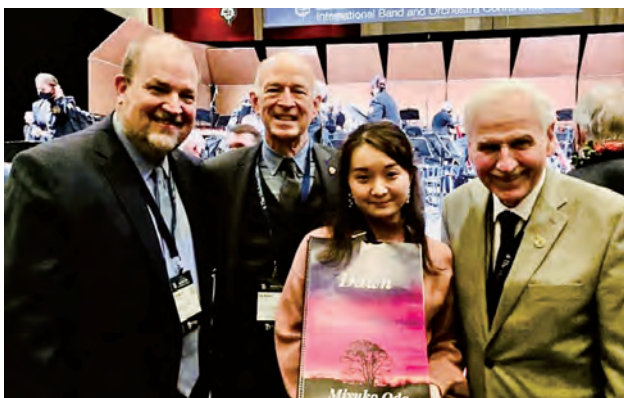
学生のころ、ウィンドアンサンブル演奏会で卒業生の八木澤教司さんや樽屋雅徳さんの作品が紹介されているのを聴いて、いつか自分の作品もと夢見ていたので、今回お話をいただき本当に嬉しかったです。武田 晃先生の指揮のもと、素晴らしい演奏で披露してくださった後輩の皆さんにとても感謝しています。

—— 小田さんの音楽歴、武蔵野との関係や作曲をめざした経緯などをお聞かせください。

小田 武蔵野の附属多摩音楽教室へ兄と共に通い、ピアノやオルフ、チェロで弦楽合奏も経験しました。高校2年生で進路を考えた時、昔から好きな曲を耳コピーで弾いたりしていたこともあって作曲に興味を持ち始め、野崎勇喜夫先生を紹介していただきました。作曲の勉強を始めたのは遅い方ですが、音楽教室ではソルフェージュも必修で、音楽の仕組みを幼い頃から学んだため、それが助けになったと思います。これがゼロの状態できいきなり和声に取り組んだとしたら、挫折していたかもしれません。

—— 学生時代はどのような作品作りをされていましたか？

小田 年に2回ある作曲学科の作品発表のほか、学園祭や、春に開催される楽器会コンサートで編曲を依頼されるなど、作



第75回ミッドウエスト・クリニックにて受賞作品初演後。
左からランブレクト先生、オースティン先生、小田さん、クレーマー先生



7月19日 東京オペラシティコンサートホールにて



「新曲チャレンジ・プロジェクト」採用作品初演後の舞台挨拶。東京交響楽団 & サントリーホール「こども定期演奏会」／指揮＝原田慶太楼／司会＝坪井直樹 ©写真提供：サントリーホール

品を発表する機会は多くありました。大学の4年間という限られた時間のなか、なるべくいろいろな楽器の作品を書こうと思っていたので、管、弦のアンサンブル、ピアノソロ、打楽器を含むものなど、多くの編成に挑戦しました。

特に印象深いのは、文化学園大学の卒業イベントとコラボする行事において、オーケストラ作品を書いたことです。私が4年生の時から作曲学科の学生がオリジナル楽曲を提供するようになり、大学院2年まで携わりました。慣れない大編成の作曲は本当に大変でしたが、この経験があったからこそ、現在オーケストラからの委嘱を受けることができています。

—— その他に大学時代の思い出などはありますか？

小田 作曲活動とは少し違いますが、同級生の伴奏を多く担当していました。時には作曲より力を注いだため「曲を書きなさい」などと言われてしまうこともありましたが、今思うと楽器のことを吸収した貴重な時間でした。伴奏譜は全て保管しており、曲作りで迷った時などに役立っています。

専攻を超えてお互いに学び合えるのは武蔵野の良いところです。楽器や声楽についてわからないことがあると、いつも周りの方が親切に教えてくださいました。今の私があるのはさまざまな専攻の友人、先生方とのつながりのお陰ですし、振り返ってみると無駄なことは一つも無かったように思います。

全てのパートが 楽しく演奏できる曲をめざして

—— 曲作りについて伺います。作曲するにあたり大切にしていることはなんですか？

小田 作曲でも編曲でも、いつも最初に全体像を決めてから作っていきます。その中で大切にしているのは、“どのパートの人も楽しく演奏できる”ことです。例えばチューバなどベースラインが多い楽器にも、スポットが当たって主役になる瞬間を作ろうとか、一度そのパートの人の気持ちになって作曲することを心がけています。

—— これまで作曲に関して嬉しかったことなどありますか？

小田 大学院2年の時、奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門に挑戦しました。その時に出した作品は、多摩音楽教室の開設25年記念「修了生によるコンサート」のために作ったもので、結果第2位、中田喜直賞、畑中良輔賞と思わぬ大きな賞を受けました。音楽教室とのお縁があって生まれた作品でしたので、先生方も大変喜んでくださり、嬉しい思い出として心に残っています。音楽教室からはその後も委嘱をいただき、コンサートの

最後にみんなで演奏できる「音のパレット」という曲も書きました。お世話になった方々に作曲家として恩返しできるのは、とても幸せなことです。今後、多摩音楽教室以外でも活用していただけたらいいなと思っています。

最近ですと、昨年シカゴで受賞曲が初演された際にも印象深いことがありました。曲のクライマックスの前に、低音楽器を組み合わせて展開するような部分を入れたのですが、そこは先ほどお話しした私のこだわりポイントで、低音パートにもスポットを当てたいという思いがありました。演奏後、アーミーフィールドバンドのクラリネット奏者の方が「バスクラリネットに見せ場があって楽しかった」と声をかけてくださって、自分の思いが伝わったんだと嬉しく思いました。

チャレンジすること、投げ出さずに続けること

—— 現在はどのような活動をされていますか？

小田 依頼をいただいてさまざまな曲を書いています。2019年に書いたサクソフォン五重奏曲《花街ラブソディ》は、最近ではアンサンブルコンクールで演奏してくださる学校も増えてきました。2021年には、夏目漱石が1年間教壇に立ち「坊ちゃん」の舞台となった愛媛県立松山東高校のコーラス部のために、漱石の書簡を歌詞に合唱曲を書きました。この作品は今年6月に愛媛合唱祭で初演されました。

今は、昨年、サントリーホールと東京交響楽団が企画した「新曲チャレンジ・プロジェクト」で作品が採用されたことをきっかけに、オーケストラからの依頼が増えています。東京交響楽団と山形交響楽団からは新曲の委嘱を、他にも地方のプロオケからいくつか編曲のお仕事をいただいています。

—— 先ほどお話ができました東京交響楽団との関わりは？

小田 私が応募した「新曲チャレンジ・プロジェクト」は、サントリーホールと東京交響楽団が主催する「こども定期演奏会」の20周年記念企画で、2021年に東響正指揮者に就任された原田慶太楼氏が、若手の作曲家を育てたいと考え新しくスタートしたものです。一般の作曲コンクールとは異なり、子供たちからの公募で選ばれたメロディを2つ以上使用することが条件となっています。作曲する時のモットーを活かし、子供たち一人一人の喜ぶ顔を想像して、採用された6つのメロディをすべて取り入れた楽しい楽曲に仕上げました。さらに来年2月19日には、「Kaleidoscope of Tokyo」という新たに手掛けた作品が同楽団定期演奏会で初演される予定です。新曲チャレンジ・プロジェクトは、若手音楽家を支援する素晴らしい企画ですので、後輩の皆さんにも是非チャレンジしていただけたらと思っています。

—— 最後に、後輩へのメッセージと今後の抱負をお願いします。

小田 後輩の皆さんへ伝えたいのは、何事にも誠実に取り組むこと、そして何でも積極的に挑戦してみるということです。私もさまざまなことにチャレンジし、投げ出さずになんとか続けてきたことが今に繋がっていると、卒業してから感じています。そして関わった友人や先生方のご縁、人とのつながりを大切にしてください。きっと将来、皆さんの支えになってくれると思います。

今後の抱負は、いただいたお仕事に対して、自分のカラーを出しつつ、常に新しいものを追求しながら真摯に向き合っていくことです。「あなたに頼んでよかった、小田さんだからこれができた」と言っていたらいいような、そういう作曲家でありたいと思っています。

ナポレオン帽子型アップライトピアノ

製作者不詳 イギリス 1853年 高さ160cm

昨年12月、本学楽器博物館が「武蔵野音楽大学楽器ミュージアム」と名称を変えリニューアルオープンし、4月からは一般公開も始まりました。これを受けて、本誌Vol.136まで裏表紙に掲載してきました「楽器ミュージアムだより」が、「楽器ミュージアムレター」として生まれ変わります。この新しいコーナーでは、楽器ミュージアムの誇る所蔵資料の紹介や、ミュージアムの活動などさまざまな情報をお届けいたします。第1回はこれまで数多くのメディアにも取り上げられてきた「ナポレオン帽子型アップライトピアノ」を紹介いたします。

1853年、フランス皇帝ナポレオン三世とウージェニー妃の結婚祝いに、イギリスのヴィクトリア女王が贈ったアップライトピアノで、全体は伯父ナポレオン・ボナパルトが愛用した帽子をかたどっています。外装は美しい胡桃の化粧板に覆われ、脚部には花や果物が彫られています。また、中央の響孔には精緻な透かし彫り模様が施され、その中にV・RとN・Eの文字が刻まれています。これは、寄贈者ヴィクトリア・レジーナ(Victoria Regina)と受贈者ナポレオン・ウージェニー(Napoleon Eugénie)のイニシャルであると、フランスのマルメゾン国立博物館から見解を得ています。ウージェニー妃はピアノをたしなみ、有名な《スケーターズワルツ》を作曲したワルトイフェルにピアノを習いました。



19世紀の欧州では、ピアノ



はサロン用楽器として発達し、そこに求められたのは高級調度品としての意匠でした。このピアノは楽器としての機能とともに、観賞用の美術工芸品としての趣を備えています。まさに大国同士の贈り物にふさわしい品といえることができるでしょう。この楽器の威厳に満ちた姿を、新楽器ミュージアムでは、鍵盤楽器展示室に入ると正面に見ることができます。(武蔵野音楽大学楽器ミュージアム所蔵)

No.56

音 | 楽 | の | 万 | 華 | 鏡 |

稲田隆之 (本学音楽学教授)

オクターヴを表す「8」をめぐる

—— リスト《口短調 ソナタ》を例に ——

楽譜上の指示のひとつに「オクターヴ記号」がある。五線譜から大きくはみ出るほど高い音や低い音に、「8va」や「8vb」等と記すことで、書かれた音符よりも1オクターヴ高い音、もしくは低い音を弾くように指示できる。通常、点線によってその範囲も指定される。

ところが記譜上では、もうひとつ別の意味の「8」が存在する。この「8」をめぐるちょっとした、しかし、大きな問題が起きて

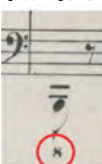
【譜例1】旧全集



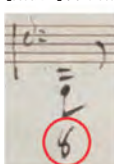
【譜例2】新全集



【譜例3】初版



【譜例4】自筆譜



【譜例5】19世紀のショパンの出版例



いる。それがリストの《口短調 ソナタ》の最後の音である。具体的に楽譜を紹介しよう。【譜例1】はリストの「旧全集」(1924年)、【譜例2】は「新全集」のものである。前者はH音の単音にオクターヴ記号が付されており、後者ではH音がオクターヴ・ユニゾンで書かれている。なぜこのような違いが起きてしまったのだろうか。

まず《口短調 ソナタ》は1854年に、ブライトコプフ社から初版が刊行された。ここで採用された記譜が【譜例3】で、H音の下に問題の「8」が書かれている。そして、この「8」は、リストの自筆譜【譜例4】に由来することも確認できる。

では、この「8」は何を意味するのか。それは【譜例5】を見れば一目瞭然だ。これは19世紀に出版されたショパンのエチュードOp.10の第1曲で、右手にはオクターヴ記号が、そして3小節目の左手に「8」の数字が書かれている。この「8」が「この音とその1オクターヴ下の音を一緒に弾くように」という指示であることは言うまでもない。

つまり、記譜の慣習としての「8」が、19世紀までは生きていた。だが20世紀に入ると、「8」の意味を取り違えたエディションが、立て続けに生み出されていく。「旧全集」もそのひとつだった。当然それらのエディションが演奏家たちの間で流布してしまう。慣れとは恐ろしいもので、多くのピアニストたちは今なお、この音を単音で弾く。作曲の最終段階で差し替えられた現行の終結部は、作品冒頭の音楽を遡るように作られている。その意味で、最後の音はオクターヴでなければおかしいのだが。

本学創立者 福井直秋に関連した2つの演奏会

■福井直秋生誕145周年記念演奏会

去る8月7日、本学創立者である福井直秋(1877-1963)の生誕145周年を祝した記念演奏会が、氏の生まれ故郷である富山県上市町の北アルプス文化センターにて盛大に開催されました。

福井直秋は、自らがその美に触れ深く感動した西洋音楽への正しい理解とその普及促進に一生を捧げ、わが国音楽教育の礎を築きました。上市町は1962年、その素晴らしい功績を称え直秋を「名誉町民第一号」に選定しています。



今回の演奏会は、(一財)上市町健康文化振興財団・本学同窓会富山県支部が主催、また上市町・同町教育委員会が全面的に協力くださり、実現にいたりました。前半は武蔵野音楽大学同窓生が日頃の研鑽の成果を披露、続いて“福井直秋氏の作品をうたう”と題し、氏作曲の作品が発表されました。後半は招待演奏として、氏の曾孫である福井直昭学長(共演:清水弘治講師)、そして佐藤美枝子声楽コース長(共演:瀧田亮子講師)が招かれ、圧巻の演奏で聴衆を魅了しました。さらに、福井学長と佐藤教授が共演し、会に一層の華を添えました。プログラムの最後には、直秋がふるさとへの愛情をこめて作曲した



「故郷の山河」を会場一体となって歌いあげ、氏の功績を伝承することを目的とした演奏会は盛会裡に幕を閉じました。

福井直秋が遺した音楽に対する強い信念と熱意は、これからも脈々と後世に受け継がれていくことでしょう。

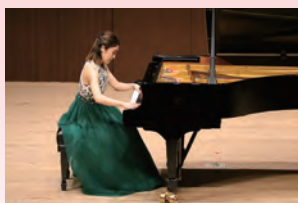
■長野県伊那北高等学校創立100周年記念コンサート

本学創立者福井直秋が作曲した長野県伊那北高等学校の校歌が、日本フィルハーモニー交響楽団の協力のもと、3つの版に編曲され、このうちのオーケストラ版が、7月13日開催の同高創立100周年記念コンサートにおいて、日本フィルの演奏によりお披露目されました。校歌の楽譜は、制定時普及していた数字譜のみで正式な伴奏譜がなかったため、同高創立100周年事業の一環として日本フィルに編曲を依頼したとのこと、これまで在校生、同窓生が大切に歌い繋いできた直秋作曲の校歌は、このたび新しい形で再現されました。

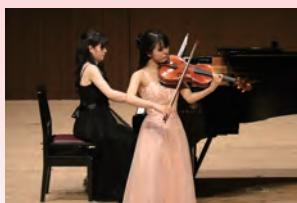


令和3年度 大学院修士課程修了生新人演奏会

令和4年5月13日 ブラームスホール



結束真琴(ピアノ)



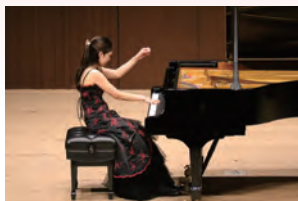
本多あかね(ヴィオラ)



成田美佳(クラリネット)



長崎真衣(メゾ・ソプラノ)



渡辺愛菜(ピアノ)



宮原 彩(ファゴット)



輪方綾乃(ソプラノ)



佐藤陽十(ピアノ)

作曲コースの教員が 個性溢れる作品を発表

本学作曲コース教員による作品発表が、6月2日ブラームスホールで開催され、満員の聴衆の中、それぞれの作曲者の個性溢れる作品が披露されました。



前半は、佐山紀彦講師の研ぎ澄まされた音色によるピアノソロ作品(自演)で始まり、木村真人講師の緊張感あふれる弦楽四重奏作品(本人指揮)、佐藤誠一准教授の楽器の性能を存分に活かしたサクソフォンとピアノのための作品と続きました。

後半は、成宮北斗講師の二人のパーカッショニストとピアノのためのダイナミックな作品から始まり、野崎勇喜夫教授のクラリネット、チェロ、パーカッション、ピアノのための透明感溢れる作品、大澤徹訓講師の小品集ながらもアンサンブルの妙により聴き応えのあるオーボエ、クラリネット、ファゴット、ピアノのための作品というプログラムでした。聴く機会の少ない現代音楽に触れることができた貴重な作品展となり、先生方の作品を見事に表現した演奏者たちの熱演に、会場からは大きな拍手が鳴りやみませんでした。

ヨウコ・ハルヤンネ トランペット公開講座

6月22日、フィンランドより来日中のトランペット奏者 ヨウコ・ハルヤンネ氏のミニコンサート&マスタークラスをブラームスホールにて開催しました。

冒頭に、講座前日の氏のお誕生日を祝って、トランペット専攻学生によるウエルカムファンファーレとハッピーバースデーの演奏が行われ、和やかな雰囲気でのスタートとなりました。前半のコンサートでは、トゥリン「カプリス」、マキネン「夜が更ける」などを披露され、氏の持ち味である落ち着いた響きのある音色がホールを満たし聴衆を魅了しました。続くマスタークラスでは、4名の学生が受講。それぞれの長所・短所が的確に示され、受講生の個性に合わせて丁寧に指導されました。

氏からは「ブラームスホールの響きは大変良く、武蔵野の学生が素晴らしい環境で学んでいる事を実感しました」とコメントをいただきました。



坂東玉三郎特別招聘教授による特別講座

坂東玉三郎特別招聘教授による特別講座が、6月28、29日の二日にわたり、ブラームスホールで開催されました。

オペラにおける演技について「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「蝶々夫人」「夕鶴」を題材に、オーディションで選ばれた学生たちのレッスンが行われました。

まず「自分の演じている場面の状況説明ができること」、「輪郭をはっきり作ること」が大切だと話され、心が伴う演技の重要性を自ら身振り手振りを交えて熱心に指導されました。演技指導のほか和装の所作についての講義も行われ、受講した学生たちにとって、歌唱と演技の関係性を深く考える貴重な時間となりました。



ケマル・ゲキチ ピアノ・リサイタル

6月30日、ベートーヴェンホールにおいて、ケマル・ゲキチ客員教授の演奏会が行われました。

プログラムは、古今の傑作ソナタ4曲を並べた大変興味深いものでした。1曲目のモーツァルトK.331は、シンプルな書式から豊かな声部の綾がまろやかな音色で織り成され、2曲目のベートーヴェン「熱情」では、一転して構築的で交響的な表現で、終楽章コーダの地鳴りのするような追い込みにもいたり、曲がもつ凄みが手に取るように感じられました。

後半は、ショパン第3番が風格をもって始められ、絶妙な軽やかさの第2楽章、そして美しい第3楽章と続き、終楽章も完璧なテクニックで情熱的に締めくくられました。最後には、20世紀最高のソナタと評されるプロコフィエフ第7番が圧巻の迫力で演奏され、終楽章8分の7拍子の躍動をもって大団円となりました。興奮冷めやらぬ場内からの盛大な拍手に応え、アンコールにリスト「コンソレーション第3番」が演奏され終幕となりました。



高嶋ちさ子 ヴァイオリン公開講座

7月8日、ベートーヴェンホールにヴァイオリニストの高嶋ちさ子さんをお迎えし、「お客様目線のコンサートの作り方～セルフプロデュースの極意～」というタイトルで公開講座が開催されました。

前半の深山尚久本学教授との対談では、高嶋さんはコンサートを作っていく要素として、聴く側は何を欲しているのかを考えることが大切だとお話しされ、経験や苦勞話を交えながら実例を挙げて解説してくださいました。続いて、「レパートリー研究」を履修している学生たちによる弦楽五重奏をモデルに、実際にコンサートを開催することを想定して、その目的にあったプログラム作りやトークが入る場合の間の合い、衣装の色にまでわたる具体的なアドバイスをされ、指導を受けた学生たちの表情が生き生きとしていたのが印象的でした。

後半のコンサートは、高嶋さん率いる「12人のヴァイオリニスト」の皆さまに登場していただき、ロッシーニ 歌劇《ウィリア



ム・テル》序曲、チャイコフスキー「花のワルツ」、エルガー「威風堂々」など誰もが良く知るプログラムが披露されました。前半の講義でお話しされていた“観ても、聴いても、美しく、楽しい”が体現された完成度の高いプロフェッショナルなステージが展開され、その華やかなパフォーマンスに、満員となった会場は大いに沸きました。高嶋さんのお人柄あふれる楽しいトークと演奏で、学生たちに夢と希望を与える講座となりました。



武田 晃氏指揮によるウィンドアンサンブル演奏会

ウィンドアンサンブル演奏会が、7月19日東京オペラシティ コンサートホールにて開催されました。今回は、本学講師である武田 晃氏の指揮により、真島俊夫「三日月に架かるヤコブのはしご」、ホエアー「ストーンヘンジ交響曲」、デ・メイ「交響曲 第1番《指輪物語》」の他、本学卒業生の小田実結子さん作曲、ミッドウェスト・クリニック主催「バーバラ・ビュールマン作曲コンクール」（中学校バンド向け作品部門）にて第1位受賞作品の「Dawn（夜明け）」を演奏しました。（P7参照）

新型コロナの感染者数が拡大する中ではありましたが、武田先生の熱心なご指導の下、一生懸命に練習に励み努力を惜しまなかった学生たちは、情景描写が巧みな楽曲群を、豊かな音色で色鮮やかに表現しました。これまでに培ってきたアンサンブル力に加え、ソロパートを演奏した学生たちの熱演が相まった充実したサウンドで、会場を感動の拍手で一杯にしました。



令和3年度 大学院博士後期課程学位記授与式

令和3年度 武蔵野音楽大学大学院博士後期課程の学位記授与式が、5月28日、本学モーツァルトホールで執り行われました。それぞれの研究成果が高く評価され、次の2名の方に博士の称号が授与されました。

◎由上 溪子さん「博士（音楽学）」

論文テーマ「ハインリヒ・マルシュナーのオペラと歌曲 ― 物語り歌からの再考 ―」

◎賀 頌凱さん「博士（音楽教育）」

論文テーマ「ソーシャル・キャピタル論に基づく音楽活動の活性化に関する検討 ― 高等学校吹奏楽部を対象として ―」

これまで培われてきた高度な知識と専門性を活かして、さまざまな分野での今後の活躍が期待されます。



武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、寄附金に対する税額控除制度の恩典が与えられたことに鑑み、教育環境整備基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々よりご寄附をいただきました。ここに
ご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。

学校法人 武蔵野音楽学園

同窓生

安倍悦子様	大坪はとみ様	川辺宣子様	佐藤溪子様	戸賀崎 都様	中村俊輔様	林 秀樹様	村上容枝様	山本和子様
家泉浩美様	寛 美代子様	葛目尚子様	嶋田晶子様	友枝恵美子様	中山紀子様	深谷陽子様	森岡 翠様	吉井 昌様
猪熊慶子様	加藤智子様	小池志津子様	下瀬弘弥様	鳥毛有香様	長柄弘道様	星野慶子様	森田恵理様	吉崎憲治様
印南英里様	川口俊子様	小松孝子様	杉田晶子様	中尾愛子様	袴田久美様	松崎和子様	森田久美子様	
打越孝裕様	川口容子様	坂本慶子様	田中美恵様	永田伸子様	長谷川奈津子様	光田明子様	安田久美子様	
榎本範子様	川崎盛徳様	佐久本眞智子様	鶴 タキ子様	中谷 勉様	波多野溪子様	宮下悠紀子様	山田久扇子様	

在学生・ごご父母

大岡久晃様	是光伸生様	高山和広様	谷永のぼる様	矢吹拓夢様	吉田朋子様
小瀬妙子様	鈴木 貴様	武久美奈子様	徳地久美子様	横尾好宣様	渡邊まゆ子様

役員・教職員・一般・他

阿久津三智子様	大竹 亮様	岸田 謙様	黄原亮司様	清水直美様	谷 友博様	原田知子様	村上直行様
石井敦子様	大槻恵司様	古池 好様	佐伯隆夫様	清水吉六様	築田きり子様	日高正枝様	守重信郎様
石本文子様	奥田 操様	高坂朋聖様	佐野悦郎様	耕 修二様	中田淳子様	福井直敬様	谷田部泰子様

※ご芳名(五十音順)は、2022年4月1日から6月30日までにご寄附いただいた方々です。(他に匿名を希望される方24名)

それ以降の方々は、次号にて掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきます。何とぞご了承ください。

※本学ウェブサイトからも、クレジットカード決済によりご寄附のお手続きができます。是非ご利用ください。

栄冠おめでとう！(コンクール入賞者等)

名称	内容	氏名
日本フィルハーモニー交響楽団	ホルン奏者として入団(2022年5月)	伊藤 舜(2014年大学卒業・ホルン)
第9回マリア・マリブラン国際声楽コンクール(イタリア)	オペラ部門 第1位	土屋優子(2012年修士修了・声楽)
第2回イブラ・グラント・アワード・ジャパン	総合グランプリ	杉尾真吾(2015年修士修了・声楽)
	特別賞	高橋七海(修士1年・ピアノ)
	ファイナリスト	茂木孔亮(修士1年・ピアノ)
第41回飯塚新人音楽コンクール	ピアノ部門 第2位	佐藤陽十(2022年修士修了・ピアノ)
第39回ソレイユ声楽コンクール	第1位、音楽現代新人賞	程 音聡(博士1年・声楽)
メディチ国際音楽コンクール2022(イギリス/オンライン)	フルート・プロフェッショナル部門 第1位	新原輝美(1993年大学卒業・フルート)
2022 "Golden Classical Music Awards" 国際コンクール(アメリカ/オンライン)	室内楽部門 グループC 第1位	王 昭然(博士3年・ピアノ)
第24回"万里の長城杯"国際音楽コンクール	打楽器部門 一般の部A 第1位、審査委員長賞	中林恵子(2016年大学卒業・打楽器)
第16回静岡県フルートコンクール	一般A部門 第1位	西崎由実香(大学2年・フルート)
第4回日本バスケットコンクール	専門部門 第2位(1位なし)	町田貴紀(2014年大学卒業・クラリネット)
第7回K声楽コンクール	ホール審査部門 第2位	根本璃音(2019年修士修了・声楽)
第25回"長江杯"国際音楽コンクール	声楽部門 一般の部A 第3位	金子千咲(2020年修士修了・声楽)
第18回アジア国際音楽コンクール	大学生ピアノ部門 第2位	目黒遥菜(大学4年・ピアノ)
	大学生ピアノ部門 第3位	奥田結衣(大学4年・ピアノ)
	社会人ピアノ部門 第3位	横山美雪(1995年大学卒業・ピアノ)
第5回マルゲリータ・グリエルミ声楽コンクール	新進歌手部門 第3位	伊藤和奏(修士1年・声楽)
第23回シヨパン国際ピアノコンクール in ASIA	コンチェルトB部門 オンラインアジア大会 銀賞 アジア大会(ホール審査)銅賞	増田和音(大学2年・ピアノ)

※上記の他多数。大学ウェブサイトをご覧ください。掲載は順不同、敬称略、学年は受賞時のものです。

2022年度 冬期受験講習会

講習会名	期間	申込受付期間	会場
大学受験講習会	2022年12月24日(土)～26日(日)	2022年10月24日(日)～12月9日(金)	江古田キャンパス
高校受験講習会	2022年12月24日(土)・25日(日)		

※詳細は、本学ウェブサイトまたは講習会要項でご確認ください。

※講習会要項は、本学ウェブサイトからお申込みいただくか、広報室(TEL.03-3992-1125)へお電話にてご請求ください。

中高生のためのステップアップ・レッスン

開催日	内容	会場
11月13日(日)	管楽器・打楽器・弦楽器	江古田キャンパス
2023年2月5日(日)		
10月9日(日)*	ピアノ・声楽 *パイプオルガンも実施	江古田キャンパス
12月11日(日)		
2023年3月12日(日)		

※事前申し込みが必要です。詳細は本学ウェブサイトをご覧ください。

【お問合せ】武蔵野音楽大学 入学センター TEL.03-3992-2500 E-mail: nyugaku-c@musashino-music.ac.jp

音楽指導者セミナー

開催日	内容	会場
10月16日(日)	本学の講師陣による、楽器や声楽などの指導者、小学校・中学校・高等学校の先生を対象とした無料のセミナーです。全13講座を開講します。	江古田キャンパス

2022年 10月～12月の演奏会

10月 3日 ^月 (18:30)	室内楽演奏会 出演＝室内楽授業履修者(弦楽四重奏、サクソフォーン四重奏、金管五重奏)	ブラームスホール(江古田) 無料(全席自由・要事前予約)
10月 5日 ^水 (18:30)	グレッグ・ニームチュク ピアノ・リサイタル 曲目＝ショパン：4つのマズルカ Op.6、バラード 第1番 ト短調 Op.23 他	ベートーヴェンホール(江古田) ¥1,000(全席自由)
10月 6日 ^木 (18:30)	室内楽演奏会 出演＝室内楽授業履修者(弦楽四重奏、木管五重奏、金管五重奏)	ブラームスホール(江古田) 無料(全席自由・要事前予約)
10月21日 ^金 (18:30)	オレグ・クリサ ヴァイオリン・コンサート&公開講座 ピアノ＝田中麻紀 曲目＝ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ 第3番 二短調 Op.108 ヴィエニャフスキ：スケルツォ・タランテラ ト短調 Op.16 他	ブラームスホール(江古田) ¥1,000(全席自由)
11月17日 ^水 (19:00)	ニュー・ストリーム・コンサート47 ～ヴィルトゥオーゾコース演奏会～ 出演＝山本樹里(Pf.)、玉垣知穂(Cl.)、曾田 響(Pf.)、國吉千聖(Sax.) 松田晏菜(Sop.)、目黒遥菜(Pf.)	トッパンホール ¥1,500(全席自由)
11月24日 ^水 (18:30)	イリヤ・イーティン ピアノ・リサイタル 曲目＝グリーグ：《抒情小曲集》より ブラームス：ピアノ・ソナタ 第3番 へ短調 Op.5 他	ベートーヴェンホール(江古田) ¥1,000(全席自由)
12月 1日 ^水 (18:30)	管弦楽団演奏会 指揮＝円光寺雅彦 曲目＝グリーグ：《ペール・ギュント》第1組曲 Op.46、第2組曲 Op.55 シベリウス：交響曲 第2番 二長調 Op.43	東京オペラシティ コンサートホール ¥1,500(全席指定)
12月 7日 ^水 (18:30)	室内合唱団演奏会 指揮＝栗山文昭、片山みゆき ピアノ＝齋藤誠二、オーボエ＝村田真理子、トランペット＝濱欠直毅 曲目＝グレゴリオ聖歌：聖母マリアを讃える聖歌 ヴィヴァルディ：グローリア RV589 他	ベートーヴェンホール(江古田) ¥1,000(全席自由)
12月13日 ^火 (18:30)	ウィンドアンサンブル演奏会 指揮＝飯森範親 曲目＝ジェイガー：シューマンの主題による変奏曲 バーンズ：交響曲 第2番 Op.44 他	東京オペラシティ コンサートホール ¥1,500(全席指定)

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために演奏会の開催が延期、中止または入場者の制限をさせていただく場合があります。
ご来場前に本学ウェブサイトでの確認または、本学演奏部にお問い合わせください。※チケットは本学ウェブサイトより購入できます。
●お問合せ 武蔵野音楽大学演奏部 TEL.03-3992-1120

2023年度 入学試験日程

大学院音楽研究科

	出願期間		試験期間
	郵送	窓口	
博士後期課程	2023年2月1日 ^火 消印 ～2月8日 ^火 必着	郵送のみ	2023年 3月8日 ^水 ・9日 ^木

音楽学部 第1年次

	出願期間		試験期間
	ウェブ出願(情報登録)	出願書類郵送	
総合型選抜 第2回	2022年11月1日 ^火 ～8日 ^火	2022年11月1日 ^火 消印 ～10日 ^木 必着	2022年 12月3日 ^土 ・4日 ^日
一般選抜 A日程	2023年1月13日 ^金 ～24日 ^火	2023年1月13日 ^金 消印 ～26日 ^日 必着	2023年 2月18日 ^土 ～22日 ^火
一般選抜 B日程	2023年2月15日 ^水 ～26日 ^日	2023年2月15日 ^水 消印 ～28日 ^金 必着	2023年 3月5日 ^日 ～7日 ^火
一般選抜 C日程	2023年3月1日 ^水 ～11日 ^土	2023年3月1日 ^水 消印 ～13日 ^金 必着	2023年 3月16日 ^水 ～18日 ^金

- 出願方法はウェブ出願となります。手続方法等詳細については本学ウェブサイトでご確認ください。
- 一般選抜A・BおよびC日程の受験では、国語・外国語(英語、ドイツ語またはフランス語)については、大学入学共通テストまたは旧大学入試センター試験の成績を利用できます。

音楽学部 第3年次

	出願期間		試験期間
	郵送	窓口	
3年次編・ 転入学(一般)	2023年1月17日 ^火 消印 ～24日 ^火 必着	郵送のみ	2023年 2月10日 ^金 ・11日 ^土

別科

別科	出願期間		試験期間
	郵送	窓口	
別科	2023年1月17日 ^火 消印 ～24日 ^火 必着	郵送のみ	2023年 2月11日 ^土 ・12日 ^日

附属高等学校(音楽科)

	出願期間		試験期間
	郵送	窓口	
推薦入試	2023年1月7日 ^土 ～14日 ^土 必着	郵送のみ	2023年1月22日 ^日 ※附属高等学校 入間キャンパスにて実施
一般入試A	2023年1月20日 ^金 ～27日 ^金 消印	郵送のみ	2023年2月10日 ^金
一般入試B	2023年3月2日 ^水 ～10日 ^水 必着	郵送のみ	2023年3月16日 ^水

※詳細は、各入学者選抜要項、入学試験要項でご確認ください。

【会場】武蔵野音楽大学江古田キャンパス

(附属高校推薦入試を除く)

【要項請求】各入学試験要項は江古田キャンパスで取り扱っています。郵送をご希望の方は、本学ウェブサイトの「資料請求フォーム」からお申し込みいただくか、広報室(TEL.03-3992-1125)へお電話にてご請求ください。

Contents Vol.141 2022

- | | | |
|-------|--------------------|---|
| 1 | 巻頭 特別対談 | 夢心運——宿命と運命に彩られた相撲人生 (前編)
宮城野親方 (元横綱白鵬) × 福井直昭学長 |
| <hr/> | | |
| 7 | 卒業生インタビュー | 『武蔵野』に押されて邁進する作曲の道 小田実結子 |
| <hr/> | | |
| 9 | 楽器ミュージアムレター | ナポレオン帽子型アップライトピアノ |
| <hr/> | | |
| | 音楽の万華鏡 | 「オクターヴを表す『8』をめぐる」 稲田隆之 |
| <hr/> | | |
| 10 | Musashino News | 本学創立者 福井直秋に関連した2つの演奏会
作曲コースの教員が個性溢れる作品を発表
ヨウコ・ハルヤンネ トランペット公開講座
坂東玉三郎特別招聘教授による特別講座
ケマル・ゲキチ ピアノ・リサイタル
高嶋ちさ子 ヴァイオリン公開講座
武田 晃氏指揮によるウィンドアンサンブル演奏会
令和3年度 大学院博士後期課程学位記授与式 |
| <hr/> | | |
| 13 | Campus Information | 武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々
栄冠おめでとう！ (コンクール入賞者等)
2022年度 冬期受験講習会
中高生のためのステップアップ・レッスン
音楽指導者セミナー
2022年 10月～12月の演奏会
2023年度 入学試験日程 |

表紙の写真

宮城野親方(元横綱白鵬)と本学 福井直昭学長のブルームスホール舞台上でのツーショット。現役時代は身長192cm、体重155kgだった親方。引退してから少しスリムになったとはいえ、学長と並ぶとその体格の良さは一目瞭然です。



学校法人 **武蔵野音楽学園**

江古田キャンパス | 〒176-8521 東京都練馬区羽沢 1丁目 13-1
TEL. 03-3992-1121 (代表)

入間キャンパス | 〒358-8521 埼玉県入間市中神 728
TEL. 04-2932-2111 (代表)

パルナソス多摩 | 〒206-0033 東京都多摩市落合 5-7-1
TEL. 042-389-0711 (代表)

武蔵野音楽大学大学院
博士前期課程・博士後期課程

武蔵野音楽大学
武蔵野音楽大学別科
武蔵野音楽大学附属高等学校
武蔵野音楽大学第一幼稚園
武蔵野音楽大学第二幼稚園
武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園
附属音楽教室 江古田・入間・多摩

武蔵野音楽大学ウェブサイト <https://www.musashino-music.ac.jp/>

